

平成27年度 事後事務事業評価シート

事業名	地域活性化推進事業	担当課・グループ	作成者（職・氏名）
		産業経済課・商工観光林業水産G	参事 木戸 知二

1 基本事項

事業区分	事業開始年度	平成 年度	事業主体	会計区分	予算科目				
	事業終了年度	平成37年度			厚真町	1	7	1	3
事業の性質	法令に基づかない自主的事業			条例等の有無		無			
根拠法令・例規計画等									
総合計画	基本目標	いのち満ちる農（みのり）の里あつま 大いなる田園の町							
	大分類	豊かな力のふるさとづくり							
	中分類	働く喜びと豊かさをつくる							
	小分類	レクリエーション・交流産業…グリーン・ツーリズムと多様な交流の展開							

2 事業概要 (Plan)

事業の目的	地域食材を活用した特産加工品発掘や特産物展示・販売、PR等を実施する団体に対し助成、支援する。
事業の内容 (手段・方法等)	「食の工夫展」開催補助金、新鮮組活動補助金、東胆振物産まつり負担金の支出。特産品PR用資材の提供等。
対象	JA女性部、新鮮組等団体、特産品をPRする者
成果目標	地域特産品の販売や加工品開発、PR等への取り組みを助長する。

3 実施結果 (Do)

① 事業費

単位：千円

事業費の推移		24年度実績 (評価対象前々年度)	25年度実績 (評価対象前年度)	26年度実績 (評価対象年度)	27年度予算 (評価実施年度)	適用
総事業費		1,573	1,577	2,551	1,747	
事業費		1,256	1,260	2,234	1,430	
特定財源	国・道支出金					
	町債					
	その他					
一般財源		1,256	1,260	2,234	1,430	
人件費 (@4,000*時間数)		317	317	317	317	事務事業時間配分計算表(別紙)により算定
事業費の 主な内訳	需用費	496	393	403	500	
	負担金補助及び交付金	650	730	1,710	760	
	その他	110	137	121	170	

② 実績・成果

指標名称			25年度(実績) (評価対象前年度)		26年度(実績) (評価対象年度)		27年度(見込) (評価実施年度)		年度 (目標年度)	
			数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位
主な活動指標	物産展参加及び補助数	目標	6	回	6	回	6	回		
		実績	6	回	5	回				
		達成度	100	%	83	%		%		%
※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する										
主な成果指標	特産品PRによる町の活性化	目標								
		実績								
		達成度		%		%		%		%
※数値化できない成果や指標の変更等について記載する										

4 事業の評価 (Check)

評価項目	評価の視点	評価結果	説明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か？	A	各団体等の特産品開発・販売に対する補助金であり、団体の活動を支援するうえで必要なものである。また、町の特産品を広くPRするうえで資材提供は必要である。
有効性	期待された成果が得られたか？	A	各地において厚真町の特産品販売や資材提供を行うことにより、特産品のPRが図られている。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か？	B	各地において厚真町の特産品販売や資材提供を行うことにより、厚真町特産品の顧客開拓にも期待でき、その後の固定客獲得につながっている。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 協働の領域 (Check)

協働の領域	民間の領域 ←-----→ 行政の領域					説明
	民間等が主体的に行うべき領域	民間等の主体性のもとで行政が支援して行う領域	両者が互いの特性を活かし、協力して行う領域	行政の主体性のもとで民間が協力して行う領域	行政の責任と主体性により独自で行う領域	
	A	B	C	D	E	
現状		○				
将来		○				

6 今後の方向性・課題・改善点 (Action)

今後方向性	B	A 事業を拡大して継続 B 現状のまま継続 C 改善して継続 D 目標の達成・完了
説明		特産品の開発については、民間事業者の協力が不可欠であり、今後も資材の提供を行っていく。
課題		「食の工夫展」の開催については、主催しているJAとまこまい広域農協女性部の会員不足により、平成26年度開催は見送りとなっている。今後の開催についても未定となっている。
改善提案		特産品を広域的にPRするために、PR活動に積極的な新鮮組等への支援を継続するとともに、町外からの来町者に特産品を提供し消費拡大を行う。また、物産展等へも積極的に出展し、特産品のPRを行っていく。

7 評価

判定	C	A 事業を拡大して継続 B 現状のまま継続 C 改善して継続 D 目標の達成・完了
意見		食の工夫展に代わる取り組みを検討することが必要

行政評価外部評価委員会事務事業評価結果

総合評価結果	C	A 事業を拡大して継続 B 現状のまま継続 C 改善して継続 D 目標の達成・完了
事業に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の幅が広すぎて内容がわかりづらい。事業名も漠然としすぎている。町民から見てわかりづらい事業である。 ・特産品を開発する事業としっかりと連動させ事業を行うべき。 ・事業の成果として、支援したイベント等の入込客数を把握し、効果測定をする必要がある。 ・事業の目的や目標、活動内容を整理する必要がある。 	

評価結果に対する町の考え方

- 平成8年度までは資源活用開発費として計上されてきたが、平成9年度から今の地域活性化推進事業となりました。現在は当初の事業内容も変わってきているので、事業名、事業内容の精査が必要です。
- 現在、特産品の開発については、特産品開発機構が行っているが、今後は特産品の開発は機構、特産品の販売、PRについては地域活性化推進事業でも進めているが、今後、機構とも役割分担等も含め検討を進めます。
- 食の工夫展、東胆振物産まつり、前沢産業まつり、新鮮組の活動など事業の効果測定を、今後は行っていきます。
- 事業目的、目標、活動内容については、前述のとおり精査します。